

平成30年度 行政・社協地域福祉推進担当者連絡会

テーマ「多様な相談に対応する市町村域総合相談体制の構築に向けて」

－ひきこもり支援事例から「総合相談体制」の課題を探る－

- 1. 目的** 「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケア」、その実現のためには、一番身近な窓口である市町村域において多様な背景・複合的要因が絡むケースに対応する「総合相談窓口」の確立が欠かせませんが、昨今、特に大きな課題となっているひきこもり者の支援場面における「8050問題」では、家族全体、地域全体を見通した医療・保健・福祉・教育機関等の連携による総合的な相談対応が必要とされています。
今回の連絡会では「8050問題」に代表される「多面的、複合的課題を抱えるケース」に対応する市町村域での相談窓口における事例等を報告いただき、各自治体での「総合相談体制」への課題を考える契機とします。
- 2. 主催** 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 市町村社協部会
- 3. 日時・会場** 平成31年1月23日(水) 13時30分～17時(予定) 神奈川県社会福祉会館 2階 講堂(下図参照)
- 4. 対象** 市区町村行政 福祉・保健・医療・子ども支援等 各担当課職員、
市区町村社会福祉協議会役職員(地区社協役員等含む)
地域包括支援センター職員、生活困窮者自立支援窓口職員、保健所職員、児童相談所職員、
精神保健センター職員、青少年センター職員等
- 5. 講師・事例報告者** ※プログラム、事例報告の詳細等は裏面を参照願います。
講 師 長谷川 俊雄 氏(白梅学園大学 子ども学部子ども学科 教授)
事例報告① 堀場 美和子 氏(掛川市社会福祉協議会 地域福祉係 主事)
事例報告② 小野寺 健 氏(所沢市 健康推進部 健康管理課 こころの健康支援室 主査)
- 6. 定員** 100名 ※先着順。定員に達し次第、締切ります。*参加不可の場合のみ、事務局よりご連絡いたします。
- 7. 申込み** ・別添「参加申込書・事前アンケート」に必要事項を記入の上、E-mailまたはFAXにてお申込みください。
・アンケートは集計の上、講師・事例報告者に提供し、参加者には機関・団体の種別のみを表記した資料として配布する予定です。
・「開催要綱・参加申込書・事前アンケート用紙」は、本会ホームページ(<http://www.knsyk.jp/>)からダウンロード可能です。

送付先：神奈川県社会福祉協議会 地域福祉推進部 地域福祉推進担当(担当：高橋)

e-mail: tiiki@knsyk.jp FAX : 045-312-6307 電話 : 045-312-4815

※会場案内図

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
神奈川県社会福祉会館 2階 講堂
*横浜駅下車、徒歩約15分

- 駐車場が狭いため、公共交通機関での来場をお願いします。
お車での来場を希望される方は必ず事前にご相談下さい。
- 研修会場は細かい室温設定ができませんので、誠に恐れ入りますが、各自で寒暖の調節が可能な服装等のご準備をお願いします。



8. プログラム 平成31年1月23日(水) 13時30分～17時(予定)

※当日の進行状況等により、プログラムの一部を変更する場合があります。

時間	項目	主な内容
13:30～13:35	開会挨拶	事務連絡等
13:35～14:15	課題提起	白梅学園大学 子ども学部 子ども学科 教授 長谷川 俊雄 氏 ・「多面的、複合的課題を抱えるひきこもり当事者・家族」への支援に関わる職員が注意すべきポイント等を踏まえ、「ひきこもり支援」に応じる総合相談体制に関して、自らも支援に取り組む講師の把握する「8050問題」の事例等を紹介し、「家族・本人にとって相談しやすい窓口」に関して、課題提起をいただきます。
14:15～15:15	事例報告(×2) ※事例報告の詳細は下記参照願います。	・①静岡県 掛川市社会福祉協議会 地域福祉係 主事 堀場 美和子 氏 ・②埼玉県 所沢市 健康推進部 健康管理課 こころの健康支援室 主査 小野寺 健 氏
15:15～15:25	情報提供	・県内市町村の包括的支援体制の状況について 神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部 地域福祉課
15:25～15:35	休憩	
15:35～16:55 (休憩含む)	パネルディスカッション 質疑応答・意見交換 講師・報告者コメント	・講師、事例報告者によるパネルディスカッションを行います。 ・参加者から提出された「ひきこもり支援・総合相談に関するアンケート」の集計結果も参考にして、質疑応答、意見交換を行います。 ・講師、事例報告者より振り返りのコメントをいただきます。
16:55～17:00	閉会挨拶	

9. 講師及び事例報告者紹介

・講師—白梅学園大学 子ども学部 子ども学科 教授 長谷川 俊雄 氏

1981年より横浜市役所の社会福祉職として勤務。その後、精神科クリニックでソーシャルワーカーとして勤務。2010年より白梅学園大学教授。NPO法人つながる会(横浜)代表理事。NPO法人フリースペースたまりば(川崎)副理事長。川崎市高津区役所・多摩区役所・宮前区役所・中原区役所・地域見守り支援センター・スーパーバイザー、神奈川県社会福祉協議会・日常生活自立支援事業契約締結審査会委員長。
(白梅学園大学 教員紹介)

<http://daigaku.shiraume.ac.jp/university/teachingstaff/faculty-002933.php>

・事例報告①—掛川市社会福祉協議会(静岡県)

平成8年度から、精神保健福祉ボランティアの組織化や社会資源の充実に向けた活動に取り組み、生活圏域での総合相談窓口開始後に、ひきこもり相談の要望が多数あったことから「社協に何が出来るのか」「事業が定着したら社協ではなく他の運営体に引き継いでいく」という考えの元に「ひきこもり支援検討連絡会」を立ち上げる。個別支援と地域支援を同時進行し「個別ケース対応」「学習会・サロン運営」「支援マップ作成」等の取り組みを実施。また長期化する前の対策として、卒業を迎える中学生への支援マップ配布など学校との連携にも取り組む。今回は、「ひきこもり支援事業」の概要と「社協としてひきこもり支援に取り組む考え方」について事例発表をいただく。
(掛川市社協 ひきこもり支援事業紹介)

<http://www.kakegawa-syakyo.or.jp/tiikifukusi/hikikomorisyasien/>

・事例報告②—所沢市健康推進部健康管理課 こころの健康支援室(埼玉県)

市民向け相談窓口として、年間7,000件程の相談を受ける。市役所内の保健師・精神保健福祉士による相談対応のみではなく、必要に応じ「精神障害者アウトリーチ支援事業」として、精神科未治療者や医療中断者、長期入院後の退院患者等に対し、住み慣れた地域での生活を支援するため、外部専門機関(国立精神・神経医療研究センター)の医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士との連携による支援を行う。今回は介護保険事業所等、市内他機関・窓口との連携によるひきこもり支援事例等も踏まえ、「当事者・家族にとって相談しやすい総合相談窓口」を目指す取り組みに関する市行政の構想を説明いただく。

(所沢市「精神障害者アウトリーチ支援事業」紹介)

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/kenko/kokoronokenko/outreach.html>